



写真：久高島、石垣島、大神島、首里（左上から時計回り）

2016年9月20日、詩人・吉増剛造のあしあとを追う旅は、青森・三内丸山遺跡から始まった。恐山、好摩、渋民を経て、さらに9月28日、能登の七尾、羽咋へ。2018年にいたるまで、北海道から沖縄まで各地をめぐる果てに、9,142枚の写真が手元に残っている。いずれも、さまざまな地の光の中に身を置きつつ、場が発する声、音を聴きながらシャッターを押した記憶が、今、よみがえってくる。

主な撮影地

帯広、美馬牛、石狩、夕張、忍路環状列石、登別、三内丸山遺跡、恐山、好摩、渋民、遠野、山寺、会津若松、猪苗代、浪江、小高、福生、羽村、八王子、下北沢、駒場、前橋、小千谷、出雲崎、七尾、羽咋、天王寺、毛馬、河内、二上山、穴虫峠、熊野、新宮、那智、田辺、松山、竹林寺、奄美、加計呂麻島、那覇、首里、久高島、普天間、コザ、宮古、大神島、石垣ほか

篠原誠司写真展

ひかりのおと

～ gozo を追う旅 2016-18

2019.10.2(Wed)-11.4(Mon)

■ 11:00 ~ 19:00 月・火曜日休廊（月曜日が祝日の場合は営業し、翌日休）
■ お問い合わせ Tel:0284-82-9172 E-Mail:info@artspace-and-cafe.com

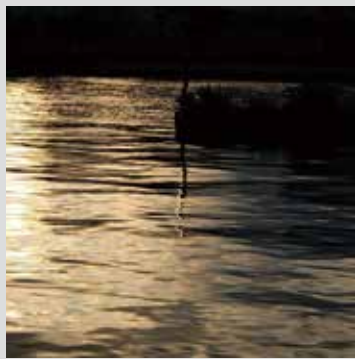
〒326-0814
栃木県足利市通2丁目2658
Tel:0284-82-9172
E-Mail:info@artspace-and-cafe.com



詩の軌跡を旅していた。「ひかりのおと」に展示される写真、その撮影の地の多くにわたしは同行することができた。展覧会「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」にまつわる旅は、おおよそ二年に渡り、吉増剛造がかつて詩篇に綴った、あるいは写真、gozoCinéにうつしてきた地を篠原氏とともに辿ったのだ。わたしたちはおもむいたさまざまな地で、詩集の頁をその場の光景にひらき、その光景に詩行をかさねた。そうすることで確かめられる詩の滯への膚ざわりがあった。吉増氏の詩の営為を道標とした旅には、めくるめく邂逅がもたらされた。人との、光景との。それらひとつひとつのおとづれがかけがえなく閃き、旅のあゆみを照らした。そんな旅の渦中、わたしたちには必ずカメラがともにあった。そして、わたしの隣にはいつも写真家としての篠原誠司がいた。今これらの途上をふりかえるならば、それはわたしにとって、詩人吉増剛造を巡る旅であり、同時に、篠原誠司という写真家の息づかいを傍で覚える経験だったのだ、そう言うことができる。

篠原誠司は、全き叙景の写真家である。やきついている。この写真展を機に、再び旅の日々での写真を瞳にして、カメラをかまえる篠原誠司のすがたが鮮明に蘇ってくる。そのかまえに惹かれていたからだ。道ゆき、篠原氏はふっとあゆみをとめ、カメラを掌に片方の臉をおろし息をこらす。見極める。耳を澄ます。息の沈黙のなか、地の光や響きが集中し渦まわく。見つめる。瞬間が凜ぎ、しずまりから、にわかに光が音が響きたつ。露光する。僅かな時間だっただろう、けれど、幾度となく篠原誠司がカメラをかまえる傍で、目のまえの光景の見え方、聴こえ方がかわる経験が確かにあったのだ。光に晒された無言のカメラが聴く音。それは篠原氏の写真を見るうえでの手がかりでもある。樹膚、水面、岩膚、枯葉等が、おとづれた地の光の奥ゆきに膚を纏わせるように写真にうつされ、その膚にたつこまやかな音の粒を見せる。そう徹する。吉増剛造の詩に導かれた旅路に、「ひかりのおと」という文言は、篠原誠司の写真における叙景の詩学的一端としても刻まれている。写真の旅はつづく。「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」。ならば、「ひかりのおと」を籠めるカメラの刹那のまなざしもまた無窮の旅人なのだ。

菊井崇史（詩人）



写真：登別、毛馬、那覇、首里（左より）

■トークイベント■

吉増剛造×篠原誠司「ヒカリノオト」（司会：菊井崇史）

2019年10月12日（土）17:00～

参加費：前売り 1,000円 当日 1,200円



篠原誠司 Seiji Shinohara

1965年栃木県生まれ。1988年多摩美術大学芸術学科卒業。在学中、吉増剛造に教えるを受ける。ギャラリー勤務の後1992～2005年、東京にてギャラリーを自営。自身のギャラリーのほか、各地のギャラリーや美術館で現代美術、写真など数多くの展覧会を企画する。1990年より写真家としての活動を始める。ギャラリーでの個展・グループ展のほか、近年では2009年に「エコ&アート・近くから遠くへ」（群馬県立館林美術館）、2012年に「会津・漆の芸術祭2012」（福島県立博物館）等に出品。2009年より足利市立美術館学芸員。「詩人と美術 瀧口修造のシュルレアリスム展」（2013年）、「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」（2017-18年）などを企画。



吉増剛造 Gozo Yoshimasu

1939年東京都生まれ。慶應義塾大学国文科卒業。在学中から詩作を始め、1964年の第一詩集『出発』以来、先鋭的な現代詩人として国内外で活躍。同時に詩の朗読パフォーマンスを行い、80年代からは銅板に言葉を刻んだオブジェや写真作品を発表。2016年には個展「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」を東京国立近代美術館で開催。2017-18年には、個展「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」を足利市立美術館、沖縄県立博物館・美術館、渋谷区立松涛美術館で開催。2018～19年には、「福島吉増剛造 会津・猪苗代・南相馬」と題して、福島県立博物館、はじまりの美術館、埴谷・島尾記念文学資料館の3館連携で吉増剛造展を開催。

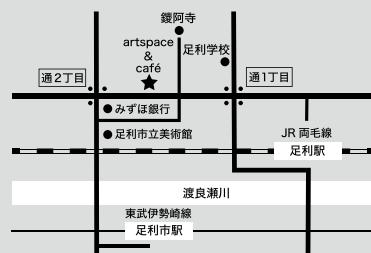
篠原誠司写真展

ひかりのおと

～ gozo を追う旅 2016-18

2019.10.2(Wed)-11.4(Mon)

■ 11:00～19:00 月・火曜日休廊（月曜日が祝日の場合は営業し、翌日休）
■ お問い合わせ Tel:0284-82-9172 E-Mail:info@artspace-and-cafe.com



■アクセス■

東武伊勢崎線足利市駅徒歩12分

JR 両毛線足利駅徒歩8分

北関東自動車道足利ICより15分（駐車場3台あり）